

## ■ 毛髪から男性の薄毛リスクを把握できる検査キットが登場

株式会社あすか製薬メディカルは、毛髪からホルモン値を測定する技術を使ったAGAリスク評価のための検査キットを発売します。自宅等で毛髪を採取し郵送することで検査結果レポートが送付され、AGAリスクを把握できます。

### AGAとは？

Androgenetic Alopeciaの略で、日本語では「男性型脱毛症」と呼ばれる薄毛の症状をさします。

薄毛の約80%がAGAだといわれており、主に生え際や頭頂部のいずれか、もしくは両方同時に薄毛が進行していきます。原因は主に遺伝や男性ホルモンに起因すると考えられています。

AGAは進行性のため、治療や対策を行わない限り抜け毛は進行し続けます。あまりに進行してしまった薄毛に対しては、治療薬の発毛効果が及ばない可能性もあるので早めの治療が求められます。



### AGA検査に関する今までの課題

従来のAGA検査では、患者様の脱毛パターンをもとに医師が目視診断を行うのが基本でした。

ただし、AGAを定量的に検査するためにはホルモン値の計測が必要です。

AGAの患者様には男性ホルモンの一種であるDHT（ジヒドロテストステロン）が高濃度で検出されるため、本来はDHTの値を計測することがAGA検査において重要です。

通常、DHT値の測定は医師等による採血によって行われますが、**当社ではわずか5～10本程度の毛髪からDHT値を測定できる独自技術を開発しました。**

これまでも毛髪採取によるDHT値の測定は研究目的で行われていましたが、測定には100本相当の毛髪が必要であり、それだけの毛髪量を採取する検査方法は実用化が現実的ではありませんでした。

この課題を克服するため、独自技術の開発によって、毛髪からのDHT値の測定を実現しました。

### DHT（ジヒドロテストステロン）とは？

AGAと深い結びつきのあるDHTは、テストステロンと同じ男性ホルモンの一種です。テストステロンが体内で5 $\alpha$ リダクターゼという酵素に代謝されたものでテストステロンの10倍以上もの強さになるといわれています。

テストステロンからDHTに変化するだけで、ホルモンの働きが変わってしまい、テストステロンは性欲を増加させますが、DHTは逆に減退させてしまいます。さらには男性ならではのお悩み、薄毛までも進行させてしまうのです。

AGA以外にも、DHTはニキビや前立腺肥大を引き起こすことがわかっています。男性にとってあまり嬉しくない影響を及ぼすことから、「悪玉ホルモン」と表現されることの多い男性ホルモンです。

## 薄毛の悩みに朗報！「毛髪ホルモン検査」の技術について



株式会社あすか製薬メディカルが提供する毛髪ホルモン量測定キットは、従来の技術では困難だった少量の毛髪からDHT値の測定が可能となります。

この技術を構築するにあたり、私たちは「液体クロマトグラフィー・タンデム型質量分析（LC-MS/MS）」という測定法を活用。これまでに培ってきた高度な技術と豊富なノウハウを活かし、世界初の技術を自信を持ってお届けします。

### 液体クロマトグラフィー・タンデム型質量分析（LC-MS/MS）とは？

液体クロマトグラフィー（LC）は、物質の質量や大きさ、分子量などの違いを利用し、分析物の成分を分離・検出する分析方法のことです。

LCで検出された成分をイオン化し、特定のイオンを選択し、さらにそのイオンから特定のイオンを解離させて質量分析することをタンデム型質量分析といいます。

毛髪ホルモン量測定キットでは、分析物（＝毛髪）から検出されるDHTの量からAGAリスクを評価します。

毛髪ホルモン量測定キットでは、5～10本程度の毛髪だけでDHT値の測定が可能です。

個人で毛髪採取の上、検査機関へ郵送することで、誰にも知られずAGAリスクを把握することができます。

## 毛髪ホルモン量測定キットの登場により変化するAGA検査

毛髪ホルモン量測定キットには以下のメリットがあります。

✓ AGAの原因であるDHT値を測定できる

✓ 痛みがない

✓ 自宅に居ながら一人で検査できる

✓ 感染症のリスクがない

✓ 室温での郵送ができる

✓ 採血でのホルモン測定と違い、  
午前と午後とでホルモン値の変動がなく、  
自分の好きなタイミングで実施することが可能

✓ 検体を送付後2～3週間で結果が届く

毛髪ホルモン量測定キットを使用する最大のメリットは、従来の個人で出来る検査方法では困難だったAGA発症のリスクを把握できる点です。毛髪中のDHT値をもとにリスクが示されるので、測定結果をもとに医師の診察を受けることで、薄毛の原因特定やより効果的な治療法の提案に繋がることが期待されます。

また、自宅で簡単に実施することができる点、感染症のリスク回避ができる点は、現代の生活様式において非常に重要な要素と言えるでしょう。

毛髪ホルモン量測定キットの普及は、薄毛に悩む多くの男性が積極的な予防と適切な治療に関心を持つきっかけとなります。長年のコンプレックスを解消し、「薄毛で悩まずに済む世の中をつくる」ことに貢献します。

## ■ 毛髪ホルモン量測定キットの使用イメージ

- 1 対象者ご自身で頭頂部の毛髪を5本採取していただきます。**※長さが足りない場合は10本以上採取してください**  
根元から抜くのではなく、根元から3cm程度の長さでカットするだけでOKです。
- 2 採取した毛髪は、根元側と先端側がわかるようにキット内の採取用台紙に固定し、付属のチャック付きポリ袋に保存します。
- 3 それを返送用封筒に入れて検査機関へ送付してください。
- 4 検査結果レポートは約2〜3週間で対象者のお手元に届き、AGAのリスク評価が示されます。

## ■ 毛髪検査キットの料金

7,980円（税込）

## ■ あすか製薬メディカルが「毛髪ホルモン検査」の開発に取り組む理由

当社は、1920年に創業者の山口八十八が「帝国社臓器薬研究所」を創設したところから始まります。動物の臓器から有用な医薬品を作り出すという独創的な発想により、ホルモン製剤の研究・製造・販売を開始いたしました。

当社には、長年にわたり蓄積したホルモン研究の経験と実績があります。これを活かし、「治療」のみならず「予防」「検査・診断」「予後」まで見据えたトータルヘルスケアカンパニーを目指したいと考えています。

「ホルモン研究のプロフェッショナルとして、薄毛に悩む方々のニーズに答えたい。」そんな思いから、毛髪ホルモン検査の開発に取り組んでおります。



## ■ 他社の遺伝子検査とあすか製薬メディカルの「毛髪ホルモン検査」との違い

一般的なAGAの遺伝子検査は、唾液からアンドロゲンレセプター（男性ホルモン受容体）遺伝子を調べ、AGAの遺伝的なリスクを調べます。アンドロゲンレセプター遺伝子とは、アンドロゲンレセプターの感受性に関する遺伝子であり、感受性が強い方ほど薄毛になりやすい傾向にあります。

一方、毛髪中のDHT値が測定できる当社の毛髪ホルモン量測定キットでは、得られたDHT値からAGAリスクを4段階で評価し、現時点でどの程度AGAのリスクがあるかが把握できるものとなりますので、遺伝子検査とは違う側面でAGAのリスクについて把握することができるものとなります。

加えて、AGAの治療はDHTを抑える薬物療法をとられることも多く、検査結果レポートにより治療効果（治療薬の効果）を判定する目安にもなります。検査結果レポートを基に医師と相談することで、AGAリスクに合った治療法が導き出せるので、より高い治療効果を実感できるのです。

## ■ 毛髪検査キットの臨床試験結果レポート

結果レポートでは、臨床試験で得たDHT量の分布から対象者がどの位置にいるのかを示し、4段階でリスクを評価します。リスクレベルを示すことで、医療機関の受診やセルフケア等を行う目安になると期待できます。

- (株)あすか製薬メディカルの独自の調査・研究に基づき、リスクレベルを評価
- リスクレベルは健常人のすべての測定結果を最小値から最大値まで順に並べ25%ずつの4段階に分け、ステージ①～④と設定

## ■ 監修医からのコメント

AGA（男性型脱毛症）は年齢を問わず発症する可能性のある脱毛症で、20～69歳の日本人男性の約3人に1人が悩んでいると言われております。最近では中年以降の男性だけではなく、20～30代で発症する若年層が増加傾向にあり、AGAの若年齢化は注視すべき大きな問題点です。しかしながら、実際にAGA治療を受けている人はそう多くありません。治療自体に関心はあっても、クリニックを受診することに抵抗を感じる男性が多いのです。

AGAの発症には、DHT（ジヒドロテストステロン）という男性ホルモンの存在が大きく影響します。DHTは、髪の毛の成長を阻害する薄毛の元凶とも言えるホルモンです。DHTの量を測定することで薄毛のリスクレベルがわかります。これまで、将来のAGAリスクについては、来院やオンライン診療による医師の評価によるが多かったと思います。しかし、その医師の評価も客観的なデータがなく、実際の臨床現場では医師の主観的、視覚による評価に頼っていた部分も多かったことは否めませんでした。ところが、本検査キットがあれば自宅にいながら自分で毛髪を採取し、簡単にDHT値が把握できるので、結果に応じて受診やセルフケアなど選択の幅が広がります。この検査キットの普及により、AGAに悩む人々の治療への障壁を和らげ、裾野が広がることを期待しています。

